

# 関電20人3億2000万円受領

## 社長「返却拒絶された」

高浜町元助役から

関西電力の八木誠会長（68）らが、関電高浜原発が立地する高浜町の元助役森山栄治氏（今年三月に九十歳で死亡）から多額の金品を受領していた問題で、岩根茂樹社長（66）は二十七日、臨時の記者会見を開き、二〇一一年二月～一八年二月の約七年間で二十人が計約三億二千万円相当を受け取り、自身や八木会長を報酬減の処分にしたと明らかにした。辞任は否定した。＝関連⑩面

### 報酬減、辞任は否定

岩根社長は「常識の範囲を超える金品は受け取りを拒んだり、返却を試みたりしたが、強く拒絶されたため一時的に個人の管理下で保管していた」と釈明した。



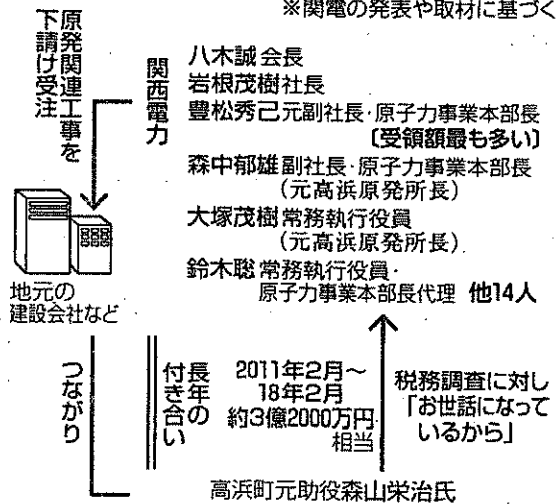
記者会見の冒頭、謝罪する関西電力の岩根茂樹社長（左）＝27日午前、大阪市で

産業界は関電から事情を聴いた。

森山氏は一九七七年、助役を務めた。当時から関電と付き合いがあり、退職後も町の顔役として影響力を持っていたとされる。関係者によると、金沢国税局は昨年一月、原発関連工事を請け負う高浜町の建設会社への税務調査に着手。この会社から工事受注

#### 関西電力役員らの金品受領問題の構図

※関電の発表や取材に基づく



に絡む手数料として森山氏へ約三億円の資金が流れていることが判明した。さらに森山氏を調べると、関電役員らに金品を送っていたことが確認された。森山氏は調査に対し「関電にはお世話になっているから」と説明したという。

電気料金を原資とする工事費が関電役員らに還流したとも言える構図が浮かんだが、岩根社長は「還流したという認識はない。発注プロセスに問題はない」と強調した。

税務調査の段階で判明した受領者は役員ら六人。総額は一億一千七百七十一年で約一億八千万円だった。額が最も多かったのは、原子力事業本部長を務め、原発立地地域への対応に当たっていた豊松秀己元副社長（66）だった。元高浜原発所長の役員二人も受け取っていた。

六人中四人は森山氏への調査が始まった昨年、すべてに全部や一部を返却。ただ、受領から既に相当の期間が経過し、自身の所得に当たるとみなされる可能性があり、自主的に雑所得として税務申告もした。

工事経歴書によると、高浜町の建設会社は一五～一八年、原発関連工事を少なくとも二十五億円受注。森山氏は、受け取った約三億円を所得として申告していなかったため、金沢国税局は申告漏れを指摘し、追徴課税した。

説明責任果たして

杉本達治知事の話 電力供給という重要な公益事業を担う企業のコンプライアンスのあり方として極めて遺憾であり、立地地域との信頼関係にも関わる。関西電力は国民・県民に対し事実関係を明らかにし、しっかりと説明責任を果たしていく必要がある。

9/28  
早稲

# 金品受領 関電社長が謝罪

関西電力の八木誠会長（右）らが高浜町の元助役から多額の金品を受領していた問題で、岩根茂樹社長（左）は二十七日午前、大阪市北区の本店の臨時記者会見で「お騒がせしたことに深くおわび申し上げる」と厳しい表情で謝罪した。「（金品は）一時的に保管していた」と説明し、慎重に言葉を選びながら、不正行為の認識はなかったとの立場を繰り返した。会見は約一時間二十五分に及んだが、誰が何を受け取ったのかなど具体的な言及はないままだった。

## 会見85分、厳しい表情

厳しい表情で記者会見する関西電力の岩根茂樹社長＝27日午前、大阪市で



会見場には百人以上の報道陣が詰めかけ、フラッシュの光が絶え間なく降り注いだ。岩根社長は想定問答集とみられる資料を手元に置いて対応したが、金品を渡された相手が元助役であることも「個人情報」として明らかにせず、記者から

「もう少し大きな声で話して」といらだった声も飛び交った。岩根社長は「事実なら許せない」と憤りの声が上がった。関電本店近くの飲食店で働く女性（30）は「大企業でさうそうと働く社員は憧れだった。事情はあるのかもしれないが、トップの私欲のためだとしたら残念」と表情を曇らせた。スーツ姿の八木会長が大坂府高槻市の自宅から姿を現したのは午前七時半ごろ。十数人の報道陣から金品受領への自身の関与を問われたが「社長が会見しますので」と述べるにとどめ、車に乗り込んだ。本店前では午前八時ごろから、社員らが次々と出社。五十代の男性社員は「何も知らされていない。驚いている」と動揺を隠せずにいた。関電グループ企業に勤める二十代の女性は「会社の信頼を損ないかねない。しっかり説明してほしい」と不安そうな様子だった。

### 岩根社長一問一答

岩根茂樹関西電力社長の二十七日午前の記者会見での一問一答は次の通り。

- 金品受領の概要を。  
二十人が計三億二千万円を受け取っていた。報酬減の処分を受けている。
- 社長の責任は。  
「会社として対処すべきものが個人の管理となっており、トップのリーダーシップの問題を感じている」
- 社長や（岩根氏が務めている）電気事業連合会会長職の辞任は。  
「再発防止を行うことで責任を全うする」
- 金品の原資への認識は。発注した原発工事の資金が還流したのか。  
「そのような認識はない。発注

## 発注額適切／関係悪化恐れ

額、発注プロセスは適切だった」  
—背広券を使ったとの話もある。  
「儀礼的なもので返却できていないものもある」  
—高浜町の元助役の故森山栄治氏から金品を拒めなかった理由は。  
「地元の有力者で、地域調整の観点でお世話になっている。先方も厳しい態度で返却を拒まれたので関係悪化を恐れた」  
—岩根社長自身が金品を受け取った状況は。  
「社長就任後に本社にごあいさつに来られた。原子力事業運営と地域に関して話した後、直接受け取った。役員から高額なものかもしれないと言われ別に管理した」  
—税務調査前に返す努力はしたか。  
「私が直接ではないが、社としては試みた」  
—東日本大震災後の節電時期も金品を受け取っていた。  
「原子力の信頼を回復する必要がある時で、心よりおわびする」  
—元助役が、原発関連工事を請け負う建設会社と関連している認識はあったか。  
「認識はあった」

# 誰が何を具体的に